

【研究シーズテーマ】

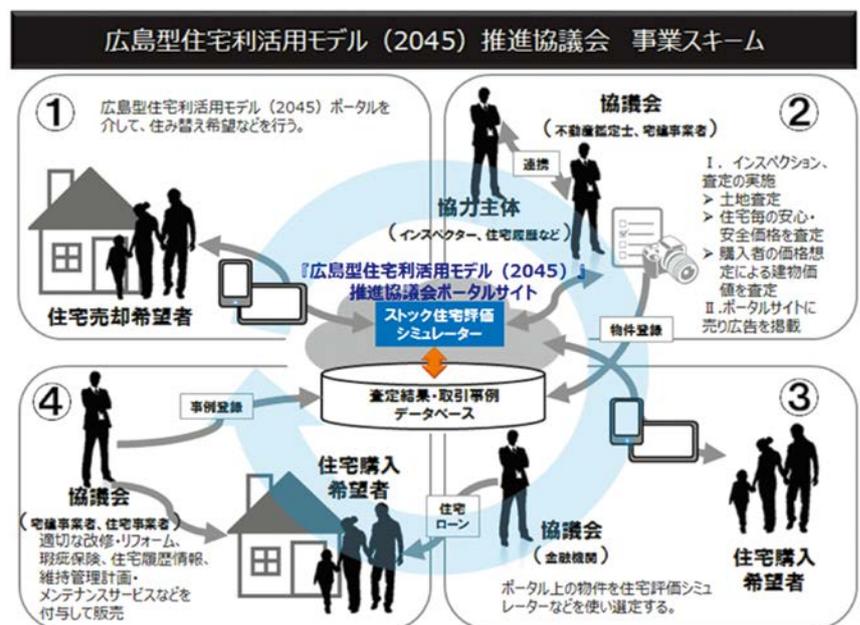
HIROSHIMA型 住宅利活用モデル(2045)の構築

 環境学部 建築デザイン学科 教授 **杉田 洋**

Keyword
中古住宅／価値の可視化／性能保証


【研究シーズの概要】

70年前の広島は何もない焼け野が原でした。本研究では、第二変換期を迎えた広島の歴史性、自然との距離といった地域性を「広島アイデンティティ」とし、いまある膨大な住宅ストックを優良な社会資本と捉えて、豊かな生活の実現を主語とした住宅ストックのさまざまな利活用について検討を重ねます。最終的な目標は、戦後100年目にあたる2045年に、その実現に向けた「HIROSHIMA型住宅利活用モデル」の構築です。



【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 住宅購入者における価格設定要因を明らかにします。
- 中古住宅の流通が活性化されます。
- 住宅性能保証といった新たなビジネスが生まれます。

【産業界での展開・用途】

- 住宅価値の可視化

連絡・問合せ先

広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp